

平成27年度
宜野湾市平和学習派遣事業

派遣報告書

平成27年8月7日～8月10日
長崎県長崎市



沖縄県宜野湾市



市長あいさつ



宜野湾市長 佐喜眞 淳

平和学習派遣事業は平和行政の推進を目的に、平成17年度より開始され、今年度で10回目の実施となりました。市内各小中学校から選出された児童生徒を被爆地長崎へこれまでに述べ80名を派遣し、毎年8月9日に行われる「平和祈念式典」及びその前日より2日間に渡り開催される「青少年ピースフォーラム」に参加し、全国の青少年と共に、戦争の愚かさ、悲惨さ、平和の大切さを学んでおります。

先の大戦で経験した、沖縄での地上戦や広島・長崎を一瞬にして廃墟と化した原子爆弾投下。このような惨劇が二度とこの地球上で繰り返されることのないよう、過去の歴史をしっかりと若い世代へ伝えていく、そしてその中で平和の大切さを改めて実感させ、「戦争も核兵器もない、平和で希望ある世界」を目指す、という本事業の役割は戦後70年が経過した今日、ますます重要となっております。

唯一の被爆国として、日本が、核兵器廃絶の実現に向け、国際社会において主導的役割を果たすことを期待いたします。

本市におきましても、昭和60年に反核・軍縮平和都市宣言を行い、平和市長会議と連携し、核兵器の非人道性を訴え、全世界に向けて核兵器廃絶を求め続けております。

現在、日本国土のわずか0.6%の小さな島沖縄に、在日米軍施設の約74%が存在しております。市域の約33%が米軍基地に占められ、なかでも市の真ん中に居座る普天間基地は市域の約25%を占め、ドーナツ状の街を形作っております。この特異な地形は、市の発展を大きく阻み、そして何より市民の生命・財産を脅かし続けております。さらに、2012年からは、普天間飛行場へMV-22オスプレイが強硬配備されたことにより、市民の基地負担はもはや限界に達していると言わざるを得ません。ついては、関係機関と連携し、普天間飛行場の一日も早い閉鎖・返還に向け取り組んでまいります。

さて、今年は戦後70年という節目の年を迎えました。年々戦争体験者が減少していることに伴い、戦争の悲惨さ、平和の大切さを語り継いでいくことが困難となりつつあります。しかしながら、今を生きる私たちは、次の世代へと戦争の悲惨さ、平和の大切さを継承していく義務があります。派遣生徒の、皆様には今回の平和学習を通して、命がいかに尊くかけがえのないものなのかを学び、これからも平和を強く意識し成長されることを願います。

本市といたしましても、沖縄戦及び原子爆弾によりお亡くなりになられた人々を追悼し、再び悲惨な戦争が起こらないよう、平和事業をとおして平和の大切さ、命の尊さを次の世代へと語り継いでまいります。

最後に、この事業にご参加いただきました生徒やその保護者の方々へ、本事業への多大なるご理解ご協力に対して御礼を申し上げますとともに、市民の皆様には平和な社会の創造に大きく貢献していただき、近い将来「戦争も核兵器もない、平和で希望のある世界」が実現されることを祈念いたします。



目次



実施概要	3
団員名簿	4
事前学習	5
派遣日程	6
長崎市内視察	7
被爆遺構巡り	8
長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典	9
青少年ピースフォーラム	10-12
長崎平和宣言（長崎市長 田上 富久）	13-14
平和への誓い（被爆者代表 城臺 美彌子）	15-16
その他 資料	16
派遣生徒報告	
■ 普天間中学校 2年 國仲 海月	17
■ 普天間中学校 2年 喜屋武 由梨	18
■ 真志喜中学校 3年 天久 音弥	19
■ 真志喜中学校 3年 奥間 晴	20
■ 嘉数中学校 2年 松田 彩夢	21
■ 嘉数中学校 2年 宮平 裕莉	22
■ 宜野湾中学校 2年 普天間 ちおり	23
■ 宜野湾中学校 3年 長浜 彩里	24
実施要綱	25-26
平和都市宣言（宜野湾市）	27

実施概要

1. 背景と目的

戦後 70 年が経過し、かつて沖縄戦において悲惨な体験をした世代が減少している今日、戦争を知らない世代が平和について学ぶ機会を作ることは、本市の平和行政を推進する観点から大変重要なことです。

特に本市においては、沖縄戦当時嘉数地区に日本軍の前哨基地があったことから、市内で激しい戦闘が繰り広げられ、多数の住民が犠牲になりました。

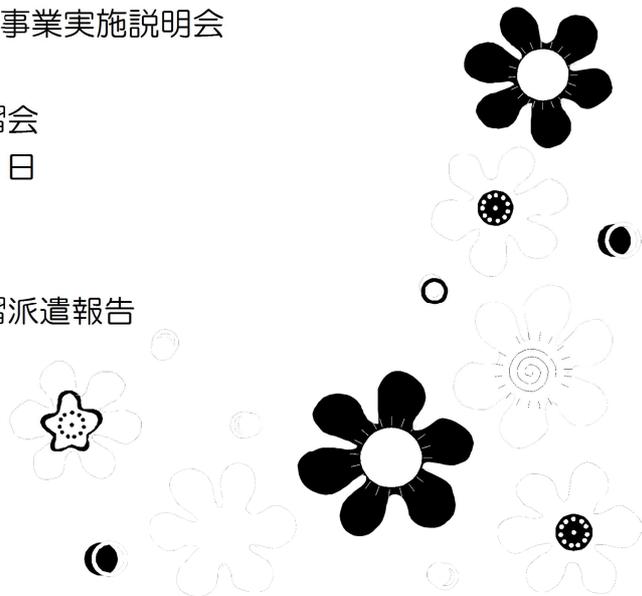
この過去の事実をしっかりと捉え、戦争を知らない世代に正しく継承していくことは私たちの責務です。

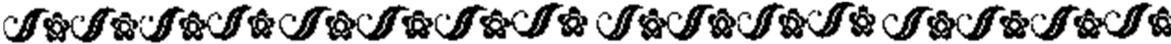
本市では市内生徒（中学生）を対象に、沖縄戦を学びながら、去る大戦での被爆地長崎を訪問する「宜野湾市平和学習派遣事業」を実施しております。

毎年 8 月 9 日に開催される「平和祈念式典」及び「青少年ピースフォーラム」へ参加し、全国の青少年と交流をする中から命の尊さや平和の大切さを学ぶことによりこれからの平和な社会を築くことを目的とします。

2. 実施経過

- 平成 27 年 4 月 13 日
宜野湾市長より宜野湾市教育委員会へ事業協力依頼
市内各中学校校長へ派遣生徒の推薦依頼
- 平成 27 年 7 月 15 日
派遣生徒・保護者を対象に事業実施説明会
- 平成 27 年 7 月 23 日
派遣生徒を対象に事前学習会
- 平成 27 年 8 月 7 日～10 日
長崎市で平和学習実施
- 平成 27 年 9 月 30 日
市長及び教育長へ平和学習派遣報告




 団員名簿（平成27年度宜野湾市平和学習派遣事業）


学 校 名	氏 名	学 年
普天間中学校	國仲 海月	2年
普天間中学校	喜屋武 由梨	2年
真志喜中学校	天久 音弥	3年
真志喜中学校	奥間 晴	3年
嘉数中学校	松田 彩夢	2年
嘉数中学校	宮平 裕莉	2年
宜野湾中学校	普天間 ちおり	2年
宜野湾中学校	長浜 彩里	3年
宜野湾中学校 教諭	與儀 絹子	引率
宜野湾市役所 市民協働推進課	村本 雄一郎	事務局

事前学習

長崎への派遣に先立ち、第2次世界大戦における唯一の地上戦である沖縄戦について学ぶことを目的とし、嘉数高台公園における屋外学習及び平和祈念資料館における学習を行いました。

期 日：平成27年7月23日（木）9:50～17:30

場 所：嘉数高台公園・平和祈念資料館

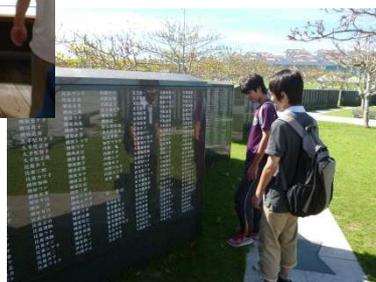
宜野湾市 基地渉外課の職員より在日米軍基地（普天間飛行場）に関する概要説明を行いました。



沖縄戦で激戦地となった嘉数高台公園にて戦跡の見学を行いました。また、展望台より普天間飛行場を眺めながら、普天間飛行場の現状について学習しました。

平和祈念資料館の学芸員の方に、沖縄戦の経過について講義を行って頂きました。

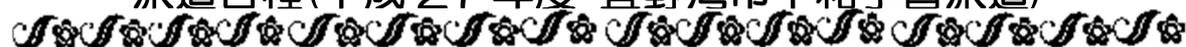
講義終了後には、「皆さんが平和のためにできることを考えてほしい」とのメッセージを頂きました。



常設展示場にて豊富な資料や映像等を通して沖縄戦に至るまでの歴史や沖縄戦の実相について学習しました。その後、平和の礎も見学しました。



派遣日程(平成27年度 宜野湾市平和学習派遣)



月 日 /時間	行 程
8月7日(金)	
8:30	那覇空港国内線3階：ANAツアーカウンター前集合
9:50	那覇発 全日空 1202 便にて福岡へ
11:35	福岡空港着 貸切りバスにて長崎へ(所要時間/約2時間30分) バス車内にて昼食お弁当
14:30	貸切りバスにて長崎市内視察 ◎出島資料館 ◎グラバー園 ◎大浦天主堂
18:30	レストランにて夕食
20:00	◎稲佐山ロープウェイ
21:00	ホテル着
8月8日(土)	
7:00	ホテルにて朝食 各自にて移動
9:00	◎原爆資料館見学 ◎浦上天主堂 ◎如子堂 ◎平和公園など
12:00	園田真珠にて昼食(飲茶料理)
13:00	ピースフォーラム参加受付(平和会館ホール)
13:30	開会行事(被ばく体験講和など)
15:10	班別交流会(15:10~17:20) 青少年ピースフォーラム(Aコース)
18:00	夕食交流会(長崎新聞文化ホール)
19:30	交流会終了後、ホテルへ
20:00	ホテル着
8月9日(日)	
7:00	ホテルにて朝食
8:00	各自にて移動
10:35	「原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」
12:00	和泉屋にて昼食(中華セット)
13:30	青少年ピースフォーラム(Aコース) 見学後、市内レストランにて夕食
19:00	ホテル着
8月10日(月)	
7:00	ホテルにて朝食
8:00	専用バスにて移動(所要時間/約2時間30分)
10:30	九州国立博物館
11:40	太宰府天満宮 見学 太宰府天満宮本殿裏「照星館」にて昼食(合格御膳)
13:30	福岡空港 到着
14:00	福岡空港着 ⇒ 搭乗手続き
15:15	福岡発 ANA1211 便にて沖縄へ
16:50	那覇空港着

長崎市視察 (8月7日)

8月7日、長崎市内の名所等を巡り、歴史・文化に触れました。

◎ コース 眼鏡橋 ⇒ 出島資料館 ⇒ 大浦天主堂 ⇒ グラバー園 ⇒ 稲佐山ロープウェイ



▲眼鏡橋をバックに



▲出島資料館の係員さんと一緒に



▲グラバー園内で記念撮影



▲西洋の文化について学習（グラバー園）



▲大浦天主堂前にて



▲稲佐山の展望台で夜景鑑賞

被爆遺構巡り（8月8日）

2日目、原爆資料館を見学しました。原爆資料館では、爆風で破壊された建物、熱線によって溶かされた皮膚、放射線による病気など、一発の原爆によって一瞬にして変わってしまった長崎の街や人々の暮らしについて、また、今なお存在する核兵器とその脅威について学びました。中でも、11時2分を指して止まった柱時計、長崎型原爆の実物大模型などが印象的でした。



現地平和案内人 内川 雅夫 さんを講師に招き、被爆遺構巡りを行いました。

コース：原爆落下中心地⇒平和公園⇒山里小学校⇒如己堂・永井隆記念館⇒浦上天主堂



▲重さ 50 t の鐘楼が 35m も吹き飛ばされた



▲内川 雅夫さんに山里小学校を案内していただく



▲山里小学校内の壁にある「あの子」（作詩：永井隆）



▲平和公園内
暑い中での平和学習



▲如己堂 「己の如く隣人を愛せよ」 永井隆博士



▲浦上天主堂前にて

長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典 参列



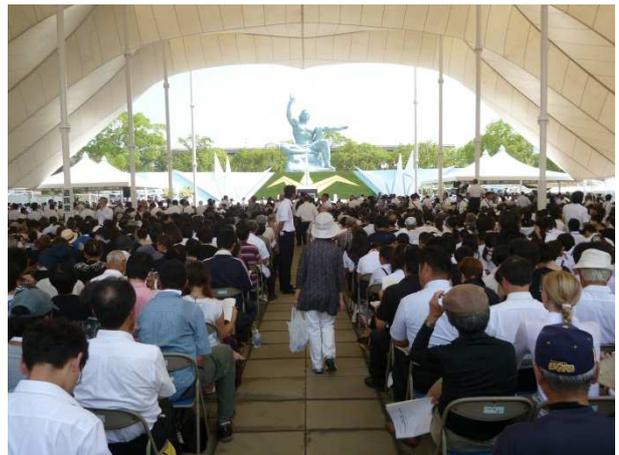
▲ 平和祈念像を背景に記念撮影



▲ 被爆者合唱



▲ 会場には平和への祈りをこめた
幾千もの千羽鶴が



被爆 70 周年 長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典へ参列しました。
核兵器の廃絶と恒久平和の実現に向け、平和の輪を世界中に広げていくことを誓いました。
会場には、82 カ国 6,800 人もの参列者が集まりました。


青少年ピースフォーラム


平成27年度 青少年ピースフォーラム

期日：平成27年8月8日(土)～9日(日)

主催：長崎市

8月9日の平和祈念式典にあわせて、全国の自治体が派遣する平和使節団の青少年のみなさんと長崎の青少年ピースボランティアの皆さんと一緒に被爆の実相や平和の尊さを学習し、交流を深めることで平和意識の高揚を図ることを目的として実施しています。

このフォーラムには、長崎市青少年ピースボランティアの高校生や大学生も参加し、平和学習の進行やフィールドワークの案内などを行っています。

■ プログラム

日	時	内 容 <場 所>	
1日目 8/8 (土)	13:30	開会行事 <平和会館3階ホール>	
	14:45	被爆体験講話 中村 一俊 さん	
	14:45	★被爆70周年記念・ヒロナガ presents ピースレンジャー☆	
	14:55		
	15:10	コース別の参加型の学習により、被爆の実相を学びます。	
	15:10	Aコース あの夏の日を忘れない ～70年前の長崎～ <平和会館3階ホール>	Bコース 歩いて学ぶ 70年前の長崎 <原爆資料館周辺>
	17:20		
	18:00	交 流 会 (希望団体)	
	19:30	<長崎新聞文化ホール>	
2日目 8/9 (日)	午前	原爆犠牲者慰霊平和祈念式典への参列 または長崎市立中学校の平和集会への参加 <平和公園内平和祈念像前広場、長崎ブリックホールなど>	
	13:30	コース別の参加型の学習により、平和の尊さについて考えます。	
	13:30	Aコース 平和な世界をつくるために <平和会館3階ホール>	Bコース 伝える ～私からあなたへ～ <長崎ブリックホール3階 国際会議場>
	15:30		

青少年ピースフォーラム Aコース (1日目)

■ 被爆体験講話

講師：中村 一俊さん (山里国民学校 6年生 当時 11歳)

爆心地より 1.5kmの農家で被爆する。屋内にいたため、幸い怪我は免れたが、家の下敷きとなり、辛うじて脱出した。一足先に帰路について母は途中で被爆、遂に死骸も見つからなかった。自宅は爆心地の近くであったため、弟たち4日とは爆死した。

途中で出会った少年の話なども交えた講話を聴き、大変貴重な時間となりました。講話の後の質問タイムでは、全国の自治体参加者から、多くの質問がありました。



中村 一俊さんからのメッセージ

これまで口に出すことさえ嫌だったが、限りある残りの人生を考えた場合、次世代へ伝えていくことが私の使命だと感じている。「国民、市民レベルで交流し、市民レベルで仲良くなること」が、戦争を避けるうえでとても大切なことだと思う。

ピースボランティアによる紙芝居を鑑賞し、原爆の恐ろしさ・核兵器の実相について学びました。その後、グループに分かれ、自己紹介と「人間知恵の輪」というレクレーションを行い、参加者同士の交流を深めました。また、今回はAコースで初めての屋外学習が実施され、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館や「未来を生きる子ら」を見学し、フィールドワークを行いました。

グループ学習



フィールドワーク



長崎市が主催するフォーラム参加団体が集う夕食交流会へ参加しました。

他県の参加者とも、積極的に交流を図ることができました。

夕食交流会



青少年ピースフォーラム Aコース (2日目)

2日目のピースフォーラムは、「平和な世界をつくるために」をテーマに長崎市平和会館で開催されました。グループごとに分かれ「あなたが世界の代表者だったら」、世界の平和のためにどのようなことをするのか、参加者同士の意見交換を行いました。



派遣生徒の皆さんへ

「長崎での様々な経験は、戦争の脅威や平和の尊さを肌で感じるよい機会となったのではないかと思います。

今回の派遣で学んだこと、経験したことを忘れることなく、そして周りへも伝えて欲しいです。

今後も『平和な世界』を実現するため、学習に励んでもらえると幸いです。」

長崎平和宣言

昭和 20 年 8 月 9 日 午前 11 時 2 分、一発の原子爆弾により、長崎の街は一瞬で廃墟と化しました。

大量の放射線が人々の体をつらぬき、想像を絶する熱線と爆風が街を襲いました。24 万人の市民のうち、7 万 4 千人が亡くなり、7 万 5 千人が傷つきました。70 年は草木も生えない、といわれた廃墟の浦上の丘は今、こうして緑に囲まれています。しかし、放射線に体を蝕まれ、後障害に苦しみ続けている被爆者は、あの日のことを 1 日たりとも忘れることはできません。

原子爆弾は戦争の中で生まれました。そして、戦争の中で使われました。

原子爆弾の凄まじい破壊力を身をもって知った被爆者は、核兵器は存在してはならない、そして二度と戦争をしてはならないと深く、強く、心に刻みました。日本国憲法における平和の理念は、こうした辛く厳しい経験と戦争の反省のなかから生まれ、戦後、我が国は平和国家としての道を歩んできました。長崎にとっても、日本にとっても、戦争をしないという平和の理念は永久に変えてはならない原点です。

今、戦後に生まれた世代が国民の多くを占めるようになり、戦争の記憶が私たちの社会から急速に失われつつあります。長崎や広島の実験だけでなく、東京をはじめ多くの街を破壊した空襲、沖縄戦、そしてアジアの多くの人々を苦しめた悲惨な戦争の記憶を忘れてはなりません。

70 年を経た今、私たちに必要なことは、その記憶を語り継いでいくことです。

原爆や戦争を体験した日本そして世界の皆さん、記憶を風化させないためにも、その経験を語ってください。

若い世代の皆さん、過去の話だと切り捨てずに、未来のあなたの身に起こるかもしれない話だからこそ伝えようとする、平和への思いをしっかりと受け止めてください。「私だったらどうするだろう」と想像してみてください。そして、「平和のために、私にできることは何だろう」と考えてみてください。若い世代の皆さんは、国境を越えて新しい関係を築いていく力を持っています。

世界の皆さん、戦争と核兵器のない世界を実現するための最も大きな力は私たち一人ひとりの中にあります。戦争の話に耳を傾け、核兵器廃絶の署名に賛同し、原爆展に足を運ぶといった一人ひとりの活動も、集まれば大きな力になります。長崎では、被爆二世、三世をはじめ、次の世代が思いを受け継ぎ、動き始めています。

私たち一人ひとりの力こそが、戦争と核兵器のない世界を実現する最大の力です。市民社会の力は、政府を動かし、世界を動かす力なのです。

今年 5 月、核不拡散条約（NPT）再検討会議は、最終文書を採択できないまま閉幕しました。しかし、最終文書案には、核兵器を禁止しようとする国々の努力により、核軍縮について一歩踏み込んだ内容も盛り込むことができました。

NPT 加盟国の首脳に訴えます。

今回の再検討会議を決して無駄にしないでください。国連総会などあらゆる機会に、核兵器禁止条約など法的枠組みを議論する努力を続けてください。

また、会議では被爆地訪問の重要性が、多くの国々に共有されました。

改めて、長崎から呼びかけます。

オバマ大統領、そして核保有国をはじめ各国首脳の皆さん、世界中の皆さん、70年前、原子雲の下で何があったのか、長崎や広島を訪れて確かめてください。被爆者が、単なる被害者としてではなく、“人類の一員”として、今も懸命に伝えようとしていることを感じとってください。

日本政府に訴えます。

国の安全保障を核抑止力に頼らない方法を検討してください。アメリカ、日本、韓国、中国など多くの国の研究者が提案しているように、北東アジア非核兵器地帯の設立によって、それは可能です。未来を見据え、“核の傘”から“非核の傘”への転換について、ぜひ検討してください。

この夏、長崎では世界の122の国や地域の子どもたちが、平和について考え、話し合う、「世界こども平和会議」を開きました。

11月には、長崎で初めての「パグウォッシュ会議世界大会」が開かれます。核兵器の恐ろしさを知ったアインシュタインの訴えから始まったこの会議には、世界の科学者が集まり、核兵器の問題を語り合い、平和のメッセージを長崎から世界に発信します。

「ピース・フロム・ナガサキ」。平和は長崎から。私たちはこの言葉を大切に守りながら、平和の種を蒔き続けます。

また、東日本大震災から4年が過ぎても、原発事故の影響で苦しんでいる福島の人々を、長崎はこれからも応援し続けます。

現在、国会では、国の安全保障のあり方を決める法案の審議が行われています。70年前に心に刻んだ誓いが、日本国憲法の平和の理念が、いま揺らいでいるのではないかという不安と懸念が広がっています。政府と国会には、この不安と懸念の声に耳を傾け、英知を結集し、慎重で真摯な審議を行うことを求めます。

被爆者の平均年齢は今年80歳を超えました。日本政府には、国の責任において、被爆者の実態に即した援護の充実と被爆体験者が生きているうちの被爆地域拡大を強く要望します。

原子爆弾により亡くなられた方々に追悼の意を捧げ、私たち長崎市民は広島とともに、核兵器のない世界と平和の実現に向けて、全力を尽くし続けることを、ここに宣言します。

2015年（平成27年）8月9日

長崎市長 田上 富久

平和への誓い

70年前のこの日、この上空に投下されたアメリカの原爆によって、一瞬にして7万余の人々が殺されました。真っ黒く焼け焦げた死体。倒壊した建物の下から助けを求める声。肉はちぎれ、ぶらさがり、腸が露出している人。かぼちゃのように膨れあがった顔。眼（め）が飛び出している人。水を求め浦上川で命絶えた人々の群れ。この浦上の地は、一晚中火の海でした。地獄でした。

地獄はその後も続きました。火傷（やけど）や怪我（けが）もなかった人々が、肉親を捜して爆心地をさまよった人々が、救援・救護に駆け付けた人々が、突然体中に紫斑が出、血を吐きながら、死んでいきました。

70年前のこの日、私は16才。郵便配達をしていました。爆心地から1・8キロの住吉町を自転車で走っていた時でした。突然、背後から虹のような光が目に入り、強烈な爆風で吹き飛ばされ道路に叩きつけられました。

しばらくして起き上がってみると、私の左手は肩から手の先までボロ布を下げたように、皮膚が垂れ下がっていました。背中に手を当てると着ていた物は何もなくてヌルヌルと焼けた皮がべっとり付いてきました。不思議なことに、傷からは一滴の血も出ず、痛みも全く感じませんでした。

それから2晩山の中で過ごし、3日目の朝やっと救助されました。3年7カ月の病院生活、その内の1年9カ月は背中一面大火傷のため、うつ伏せのままで死の淵をさまよいました。

そのため私の胸は床擦れで骨まで腐りました。今でも胸は深くえぐり取ったようになり、肋骨（ろっこつ）の間から心臓の動いているのが見えます。肺活量は人の半分近くだと言われています。

かろうじて生き残った者も、暮らしと健康を破壊され、病気との闘い、国の援護のないまま、12年間放置されました。アメリカのビキニ水爆実験の被害によって高まった原水爆禁止運動によって励まされた私たち被爆者は、1956年に被爆者の組織を立ち上げることができたのです。あの日、死体の山に入らなかった私は、被爆者の運動の中で生きてくることができました。

戦後日本は再び戦争はしない、武器は持たないと、世界に公約した「憲法」が制定されました。しかし、今集団的自衛権の行使容認を押しつけ、憲法改正を押し進め、戦時中の時代に逆戻りしようとしています。今政府が進めようとしている戦争につながる安保法案は、被爆者を始め平和を願う多くの人々が積み上げてきた核兵器廃絶の運動、思いを根底から覆そうとするもので、許すことはできません。

核兵器は残虐で人道に反する兵器です。廃絶すべきだということが、世界の圧倒的な声になっています。

私はこの70年の間に倒れた多くの仲間の遺志を引き継ぎ、戦争のない、核兵器のない世界の実現のため、生きている限り、戦争と原爆被害の生き証人の一人として、その実相を世界中に語り続けることを、平和を願うすべての皆さんの前で心から誓います。

2015年（平成27年）8月9日

被爆者代表 谷口 稜暉（すみてる）

その他 資料

8月7日～10日までの4日間、市内各中学校の生徒8名が、平和学習で被爆地である長崎市を訪れました。

長崎では、原爆資料館の見学、平和案内人の説明のもと被爆遺構を巡り、原爆の悲惨さを学んだほか、青少年ピースフォーラムでは、全国の青少年と「平和のために自分ができること」をテーマに、積極的に意見を交わしました。また、平和祈念式典へも参列し、原爆被疑者の冥福と世界恒久平和を祈りました。

学習報告会では、生徒それぞれが平和への想い、平和学習で学んだことについて発表しました。

生徒たちは、11月22日に開催される「宜野湾市戦後70年平和祈念事業」に出演し、長崎で学んだこと、平和への想いを発表します。



被爆地・長崎での平和学習を報告



学習報告会



被爆体験者講話



青少年ピースフォーラム



交流会



平和祈念式典

市報ぎのわん（平成27年11月号）

派遣生徒報告



「平和」とは・・・

普天間中学校2年
國仲 海月

私は、8月7日から8月10日の4日間、原爆投下の悲惨さや、長崎や福岡の歴史についていろいろな事を学びました。

初日は、長崎を観光しました。初めて訪れた出島資料館やグラバー園は、とても風情がある場所でした。夕食後に、稲佐山の展望台から見た夜景は、世界三大夜景の1つともいわれ、70年前に原爆が落とされたと思えぬくらいキレイでした。

2日目は、原爆資料館見学、被爆遺構巡りをした後、青少年ピースフォーラムに参加しました。原爆資料館では、11時2分を指して止まった柱時計や、脚の曲がった給水タンク、頭がい骨の付着した鉄かぶとなど原爆の恐怖を思い知りました。その後は、平和ガイドと共に山里小学校をはじめとする被爆遺構巡りをしました。話していただいた内容はどれも驚くほど残酷で非道なものでした。

ピースフォーラムでは、被爆者の講話を聞いたり、フィールドワークを行いました。夕食は、ピースフォーラム参加団体が集う夕食交流会に参加し、他県のみなさんと交流を深める良い機会となりました。

3日目は、原爆犠牲者慰霊平和祈念式典に参列させてもらうことができました。原爆投下時刻11時2分に黙禱を捧げました。黙禱終了後、はとがははたく姿を見て、原爆で亡くなった方が尊ばれてるように思いました。その後は、前日同様ピースフォーラムに参加し、私達が平和であると感じる時、平和が続くためにどうすればよいかについて班別にまとめ発表しました。

4日目は、福岡県に行き、九州国立博物館、太宰府天満宮を見学しました。博物館では、13世紀、元寇で使用された実物のてつはうを見ることができました。太宰府天満宮では、参拝し、おみくじをひいたりなどして、派遣事業がより充実したものとなりました。

この4日間を終え、『平和』という言葉に対する考え方が大きく変わりました。戦争をしない事が平和、家族や友人と一緒にいることが平和、人それぞれ平和に対する考えがありあます。その様々な考えを知り私も私なりの平和に対する考えをもつ事ができました。それは、人それぞれの考える平和を尊重し、伝えあうこと、です。なので、みんなが考える平和を知り、私自身も伝えていきたいです。

派遣生徒報告



「平和学習派遣事業を終えて」

普天間中学校2年

喜屋武 由梨

私は、8月7日から10日までの3泊4日、長崎県で平和についてや長崎に落とされた原子爆弾について学びました。

1日目は、長崎市内を観光しました。出島資料館とグラバー園、大浦天主堂などを見て、長崎にはたくさんの歴史があるんだなと少しびっくりしました。

また、夜は稲佐山で、世界三大夜景にも登録された夜景を見て、今まで見たことがない美しさで、ここに原子爆弾が投下されたなんて考えきれないほどきれいで感動しました。

2日目は、平和ガイドさんと原爆資料館を見学し、被爆遺構巡りをしました。

原爆資料館では、当時の人々の写真や長崎型原爆を見て、あらためて原爆の恐ろしさを知りました。

被爆遺構巡りは、原子爆弾が落とされた時のことを詳しく教えてもらい、1945年8月9日午前11時2分、山の上で原子爆弾が落とされ、約43秒後に今の原爆公園に落ちたそうです。

また、原子爆弾の中心温度は900万度、地上では3000～4000度の高熱だったと聞きとてもこわいと思いました。

ピースフォーラムでは、みんな別々の班に分かれて、他の県の子と一緒に平和について勉強しました。

最初に被爆者の中村さんの話を聞き、中村さんの思う平和とは、となりの人と仲良くし、クラスが平和になり、それを広げていくことで世界が平和になると言っていて、私は確かにそうだなと共感しました。

そのあとに、班別の交流会があり、班の仲を深めることができたのでよかったです。

夜の夕食の交流会では、東京の人と方言の話などをしてとても楽しみました。

3日目は、長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典に参列しました。

長崎市長が行った平和宣言の中で、「70年を経た今、私たちに必要なことは、その記憶を語り継いでいくことです」という言葉が私は印象に残り、この長崎で学んだことをしっかりとたくさんの人に伝えていけたらいいと思いました。

式典のあとに、前日のピースフォーラムの続きで、「私たちの平和が続くためにはどうしたらよいか」などのことを一人一人考え、班で意見をまとめて、全部の班で平和な地球儀を作りました。

私は、この宜野湾市平和学習派遣事業に参加して、初めてこんなに深く平和について考えさせられました。

また、被爆者の話を聞いたり、資料を見たりなど長崎の原爆の恐ろしさをあらためて感じました。

このようなことを二度と起こさないように、今、自分が生きていることに感謝し、戦争のことを忘れずにこれからも平和に過ごして行きたいです。

派遣生徒報告



「平和の大切さ」

真志喜中学校3年
天久 音弥

僕は、8月7日から8月10日までの4日間を、宜野湾市の代表として、長崎県での平和学習派遣事業に参加しました。

初日は、出島資料館、グラバー園、大浦天主堂などを観光し、現在の長崎を見ることが出来ました。夜には稲佐山の展望台から長崎の夜景を見ました。夜の長崎は、とても綺麗で感動しました。

2日目は、原爆資料館や被爆遺構巡りなどで、原爆について学びました。原爆資料館では、爆風で破壊された建物、熱線によって溶かされた皮膚、放射線による病気など、原爆の悲惨さが伝わってくる資料を見ました。原爆資料館に展示されている資料は、現在の日常生活では想像も出来ないような物ばかりで、当時の被爆者の気持ちを考えると、とても胸が痛みました。原爆資料館を見学した後は、被爆遺構巡りで、平和公園、山里小学校、如己堂、永井隆記念館、浦上天主堂などを見学しました。そしてその後は、青少年ピースフォーラムに参加しました。ピースフォーラムでは、実際に被爆した方の話をききました。被爆した方の話はとても残酷で、原爆の恐ろしさが伝わってきました。それと同時に、今の世の中が平和であるということを実感しました。そしてその次に、それぞれのグループに分かれて、自己紹介やピースボランティアの方々による紙芝居の読み聞かせがありました。ピースフォーラムでは、他県の人と意見交換が出来て、とても貴重な体験が出来ました。

3日目は、平和祈念式典に参列しました。式典では、原爆が落とされた11時2分に、二度と悲惨な戦争を起こさないという思いでもくとうしました。もくとうが終わると、長崎平和宣言、平和への誓い、児童合唱などがありました。僕は、長崎平和宣言の「原爆や戦争を体験した日本、そして世界の皆さん、記憶を風化させないためにも、その経験を語ってください。」という言葉が印象に残りました。

僕はこのような経験を通して、戦争などの悲惨な出来事にも目を背けず、語り継いでいくことが大切だと思いました。そして、一人一人が平和に向けて努力していけば、世界中が平和になると思います。

僕も平和な世界になるように努力していきたいです。

派遣生徒報告



「平和学習を終えて・・・」

真志喜中学校3年
奥間 晴

ぼくが、この長崎派遣に行って考えた事学んだ事はとってもたくさんあります。

その前になぜ僕がこの長崎派遣に行こうと思ったのか、理由を説明したいと思っています。

今年は戦後70周年ということで授業やTVなどでよく戦争について見るようになってきた時、学校で平和について学ぶ長崎派遣の広告を見たとき行きたいなあ~と思いました。

すると先生が「行ってみたら？」とか言うので自分の意志で行くことにしました。

そして学んだことを言います。

自分が思っていた平和とは、「戦争がおきなかったり差別とかがないことを平和。」とっていました。でも、長崎に行ったときに被爆者の人の話をきくと、友達とあそんでた時に原爆がおとされたりしたと言っていたので、自分ももしも友達とあそんでいて原爆などがおとされると思うと、とってもこわいです。さらにピースフォーラムで原爆の音を再現したものをその場でききました。ビーズのようなものがバケツに入る音でした、意外と音が大きくてビビりました。さらにピースフォーラムではたくさんの県から小学生から高校生まできていました。とってもびっくりしました。

そして一番びっくりしたのが、原子爆弾が地面におちてばくはつするのではなく、上空ですでにばくはつをしていることにとってもびっくりしました。

そして、もうひとつビックリしたのが、被爆者の外で歩きながら話をきくときにそのおじいさんの歩くスピードがとってもはやくてビックリしました。

あと色々な県の人たちともふれあえたのでとってもよかったです。

ぼくがこの派遣で一番感じたことは、原子爆弾が落ちた場所なのに人々がさかえていたり自然がけっこうすごかったことです。

自分は原爆が落とされた場所なので田舎のような場所と思ったらぜんぜんちがうくて、普通に都会でした。

次は、3泊4日中だいたい2日間あった観光です。

自分は一番稲佐山の夜景が一番すきでした。あとはグラバー園にいたり、バイクを食べたりしました。

ぼくがこの派遣学習をとおして思ったことは、平和とは、「友達とあそんだりすることができる、皆で力を合わせて戦争があっても復こうできる、皆が何ごともなくくらしてる。」これが今回の派遣で分かりました。

自分が戦争についていろいろかんがえることが出来た時間でした。

ぼくは今回の出来事を友達につたえたりいっしょにかんがえてみようと思いました。二度と色々な人々がきずつくようなこのおそろしい戦争をしないためにも、色々な事を考えていこうと思いました。

派遣生徒報告



「私が願うこと・・・」

嘉数中学校2年

松田 彩夢

1945年8月9日午前11時2分、一発の原子爆弾によって、市民約24万人のうち約7万4千人もの尊い命が一瞬で奪われ、約7万5千人の負傷者がでました。かろうじて生き残った人も体や心に深い傷を負い、現在でも多くの被爆者が苦しんでいます。

今回、私はこの平和学習で多くの事を知り、そして学び、家族や友達など周りの人に伝えることができました。

まず1日目は長崎の観光名所、「グラバー園」や「出島」などに行きました。そこでは、長崎の歴史について色々学び、特に出島では日本が鎖国だった時代、大切な貿易の拠点だったということを知りました。

2日目は平和資料館で自主学習をしたのち、平和ガイドさんの方と一緒に、「浦上天主堂」、「永井隆記念館」そして「山里小学校」などをまわりました。山里小学校では、全校生徒1581人中およそ1300人が死亡したとガイドさんはおっしゃっていました。私達より小さい小学生が一瞬で亡くなってしまったことにとってもショックを受けました。同じく2日目は、ピースフォーラムを行いました。ここでは、被爆体験者の講話を聞きました。この方が、「投下された直後はまさに生き地獄のようだった」とおっしゃっていました。一瞬で「生き地獄」、そして「焼け野原」と化してしまった長崎市。「もし宜野湾市が・・・」と考えるだけでゾッとしてきました。

3日目は午前中、平和式典に参列しました。私は、長崎市長や被爆者代表のスピーチを聞き、改めて核兵器を世界からなくすこと、そして平和の大切さを感じました。午後は、ピースフォーラム2日目を行いました。班ごとに別れて、「核兵器について」、「平和について」意見交換をしました。色々な方の意見を聞き、自分の意見を改めて考え直したり、自分の意見を強く持つ事ができました。

私がこの平和学習を通して一番感じた事は、戦争の恐ろしさ、そして原爆の恐ろしさです。

終戦から70年がたった今、戦争体験者の平均年齢は80歳を超えています。こうして体験者が高齢になっていく中、私達にできることは、戦争の悲惨さに目をそむけるのではなく、戦争の実態、そして恐ろしさを次世代に伝えていく事だと思います。

戦争について知り、学ぶ事は必ず平和につながります。

私は、1日も早く世界から核兵器がなくなる事、1日も早く戦争がなくなる事、そして1日も早く苦しんでいる人達が笑顔になる事を強く願っています。

派遣生徒報告



「平和が続きますように」

嘉数中学校2年

宮平 裕莉

私は、「今の平和が未来も続いてほしい・・・」この想いを胸に、3泊4日の平和学習派遣事業に参加しました。今まで、戦争の事といえば、沖縄戦の事しか勉強したことがなくて、原爆の事を深く考えた事はありませんでした。ですが、今回長崎で平和学習をして、原爆の事をたくさん勉強して、改めて戦争の恐ろしさを学びました。原爆資料館に行き、展示物や映像を見たり、ガイドさんの話を聞いたりしました。それは、私の想像を超えるほど、全てが残酷でした。

被爆者の方の話を書く事もできました。その話の中で、「一瞬にして自分が自分でなくなり、大切な人を失う。」という言葉が心に残っています。今の日本では考えきれない話ばかりでした。皮膚が焼けただれている人やガラスが体中にささっている人、炎の中水を欲しがると、今でも後遺症に悩まされている人・・・私は驚くと同時に、今の私の生活がどれだけ幸せなものか、どれだけ平和なものか、そして今の生活に「感謝」の気持ちを忘れずにもっているのか、などたくさんの事を考えました。

そして私たちは、原爆犠牲者慰霊平和祈念式典に参加しました。めったにできない貴重な体験をすることができました。今までテレビや本の中でしかみることのできなかった、たくさんの鳥が羽ばたくのを生でみて、とても感動しました。

被爆者の方々の平均年齢がどんどん上がってきている今、私達若い世代へ本当の戦争を語っていくのが難しくなっています。この平和学習で学んだたくさんの事を一人でも多くの人に伝えていくのが、平和のために私ができることだと思います。平和が続いてほしいから、私は、自分のできる事を精一杯していけたらいいなと思います。

派遣生徒報告



「原爆の恐ろしさを知って」

宜野湾中学校2年
普天間 ちおり

私は8月7日から3日間、宜野湾市平和学習派遣事業で長崎県に行きました。この4日間は私にとって、平和とは何か、戦争はどのくらい悲惨な事を深く知る経験になりました。

1日目は長崎市内の学習で、出島資料館、グラバー園、大浦天主堂に行き、夜は「世界三大夜景」の1つでもある夜景を見に行きました。長崎市は貴重な場所などがとても多く、この場所に原爆が落ちたとは考えられなかったです。特に印象に残ったのは夜景で、長崎市が平和な事を表しているようで、とてもきれいでした。

2日目は長崎平和公園に行き、原爆資料館を見学しました。遺構巡りの、原爆落下中心地から近い距離で被爆した山里小学校は、原爆が落ちた時の様子がそのまま伝わってきました。

青少年ピースフォーラムでは、被爆された方の話を聞き、平和を祈念する像などを見に行きました。被爆された方の話は、本当に日本でそのような事があったのかと思うくらい悲惨なものでした。この話をしっかりと胸にきざみ、周りの人に少し手も伝えていきたいと思いました。平和を祈念する像には、子供達が手をつないでいる形のものがあり、長崎の人達がとても強く平和を願っていると感じました。

3日目は戦後70周年でもある平和祈念式典に参列しました。式典では、被爆された方々の合唱、体験談、長崎市長の話、平和への誓いがありました。合唱曲「もう二度と」には「もう二度と作らないで わたしたち被爆者を」という歌詞がありました。私はその強い言葉から、ゆるぎない平和への思いを感じ、私も世の中をもっと平和にするために出来る事を努力していこうと思いました。その歌をきいて、被爆された方々はどのような思いでこの歌を歌っているのだろうと思いました。

その後のピースフォーラムの続きでは、他府県の人達と平和についての意見を出し合いました。いろいろな人の意見を聞いて、自分の考えが、平和は身近にある事なんだと変わり、もっと広く平和について考える事ができました。

私はこの3日間で、平和に対しての思いが派遣前よりとても大きくなりました。被爆された方の話、思いを心にきざみ、原爆の恐ろしさを周りの人達に伝え、語り継いでいく事が私達にできる1番大切な事だと思いました。

私の考える平和は、一人一人が笑顔でいられる事です。この平和をこれから作り出すためには、対話をする事だと思います。小さな事からでも、大きな平和につながるように努力していきたいです。

派遣生徒報告



「未来に向けて」

宜野湾中学校3年
長浜 彩里

戦争から70年経ったこの節目の年に、私達は、この長崎平和学習に参加しました。教科書で学習するだけでなく、実際に原爆の被害に遭った長崎の街へ行くことで、直接現地の様子や、そこに住む人達の想いをより深く知ることができるのではないかと考え、参加を希望しました。

2日目に行った原爆資料館には、原爆の熱線によって溶けたガラスや、人の頭蓋骨がついたヘルメット、焼けてぼろぼろになった衣服などが展示されていました。その中にあった、焼け野原になってしまった街の写真に、私は疑問をもちました。真っ黒に焦げた木々が、倒れることなく立っていたのです。後で先生に聞いた話によると、爆心地に近かったその場所は、爆風を上から受けたため、木や建物の一部は横からの風になぎ倒されずに残っているということでした。この話を聞いて、原爆がもたらした悲劇を生々しく感じました。

また、その日の午後と3日目には、青少年ピースフォーラムに参加しました。被爆者の方の講話や、被爆遺構の見学を通して、戦争の傷は、街にも人の心にも残り続けていると感じました。しかし、青少年ピースフォーラムを企画してくださったピースボランティアの若い人達を見て、傷を傷のまま放置するのではなく、これからその原爆の悲惨さ、そして平和を望む気持ちを世界中に伝えていこうという、前向きな心も感じました。ピースフォーラム2日目に、BB弾を原爆に見立てて器に落とし、長崎に落とされた原爆の音と、今世界中にある原爆の音を比較しました。長崎の原爆は、凄まじい威力があったのにも関わらず、とても小さな音でした。世界中の原爆のBB弾の音は、滝のような大きな音を長いこと響かせました。もし、この大量の原爆が投下されれば、建物も人も自然も、全て消えてしまうと思います。そうならないようにするためにも、ピースボランティアの方達のように、平和のために、私達に何ができるのか考え、行動することが大切だと思いました。

3日目に参加した、被爆70周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典には、高齢の方から私達と同じくらいの歳の人まで、本当に多くの人々が来ていました。中には欧米やアジア系とみられる外国の方もいました。70年前は敵同士だった人々が平和を願い、被爆地である長崎に集まっているということは、戦争のない未来を目指すことにおいて、とても意味のあることだと思いました。

今回、平和学習に参加して、長崎の方や、私達と同じように学習しに来ていた他県の人達との交流を通して、平和を望む人々が手を取り合っていけたら、核兵器を無くすことができるのではないかと思います。

大切なのは、相手と心を通わせて話し合うこと、そして、私達が未来へ戦争と平和を伝えていくことだと思います。

実施要綱

宜野湾市平和学習派遣事業実施要綱

宜野湾市平和学習派遣事業実施要綱

(目的)

第 1 条 この要綱は、市の平和行政の推進を目的とする宜野湾市平和市民啓発事業の実施により市内生徒を原爆被爆地に派遣し、平和に関する学習、交流等を通して平和の尊さを学び平和思想に対する啓発を高めるために、市内生徒のなかから派遣される生徒(以下「派遣生徒」という。)を選抜すると共に、その役割及び平和学習派遣事業実施等に関する基本的な事項を定めることを目的とする。

(派遣生徒の選抜)

第 2 条 派遣生徒は、思想、信条、宗教の如何を問わず広く平和を愛する市内生徒のなかから以下の要領で選抜する。

- (1) 派遣生徒は市内各中学校区から 2 名選抜し、定数は 8 名以内とする。
- (2) 派遣生徒の対象学年は中学校全学年とし、選抜方法については各学校長に一任する。
- (3) 派遣生徒は各中学校長名での推薦書(様式第 1 号)及び保護者の派遣同意書(様式第 2 号)を市長に提出し審査後、市長が派遣を決定する。
- (4) 派遣が決定した後に、派遣生徒本人からの辞退申し出があった場合はさらに同一中学校区より補充し、決定する。

(役割)

第 3 条 派遣生徒は、日本国憲法の理念を大切にし、戦争のない社会、ひとりひとりの生命を限りなく大切にする人間尊重の社会を創り、それを発展させるための平和交流及び日常的に生活の中で平和について積極的な活動を行うことを役割とする。

(平和学習への派遣)

第 4 条 派遣生徒は、市の計画する以下の内容の平和学習派遣事業に参加し、平和への認識を深める研修・交流活動を行うものとする。

- (1) 平和学習派遣は 8 月に実施し、派遣先は広島市、長崎市のどちらかを市が決定する。
- (2) 派遣期間は原則として 4 日以内とする。

(3) 派遣生徒は市の計画する事前学習に積極的に参加するものとする。

(費用負担)

第5条 平和学習派遣に係る費用負担については以下のとおりとする。

- (1) 派遣に関する費用(実費)については、旅費・交通費、宿泊費、食卓費、旅行保険費用については市の負担とする。但し、事前学習の交通費については派遣生徒の負担とする。
- (2) 平和学習に関する費用(実費)については、参加料、講師料、施設入館料については市の負担とする。
- (3) 事前研修及び派遣期間中に派遣生徒の責任により生じた経費及び疾病などによる経費は派遣生徒の負担とする。

(随行員)

第6条 派遣期間中においては、下記のいずれかの職員が派遣生徒を随行するものとする。

- (1) 教育委員会職員
- (2) 中学校教員
- (3) 事務局職員

(派遣後の報告書の提出)

第7条 派遣生徒は、派遣事業終了後、以下の内容で報告書を提出しなければならない。

- (1) 派遣生徒は派遣事業終了後1ヶ月以内に市長へ報告書を提出する。
- (2) 前号で定める報告書は、400字詰め原稿用紙2枚以上とする。

(事務局)

第8条 本事業の事務局を平和行政担当課に置く。

附 則(平成17年6月8日決裁)

附 則(平成24年4月12日決裁)

この要綱は決裁の日から施行する。

世界平和を希求する 反核軍縮平和宣言都市



平和都市宣言

我々宜野湾市民は、第二次大戦の悲痛な教訓を生かし、反核、軍縮を求める平和都市として次のとおり宣言する。

- 我が国は、非核三原則を国是としており、今後ともその基本理念である反核を全国民が連帯して推進しなければならない。
- 宜野湾市民は、宜野湾市を永久に反核、軍縮を求める平和都市とすることを決意し、人類の滅亡につながる核兵器の廃絶と軍備の縮小を核保有国に強く求める。
- 我が宜野湾市民は、子孫の繁栄を願い、世界平和を希求する諸国民と連帯して、米ソ両国に反核、軍縮を強く求め、恒久平和を築くため、全力を尽くすことを誓う。

1985年（昭和60年）3月18日
宜野湾市

資料提供 長崎市 被爆継承課

発行 宜野湾市

市民協働推進課 平和・男女共同係

〒901-2710 沖縄県宜野湾市野嵩 1-1-1

TEL 098-893-4411 FAX 098-892-7022

HP <http://www.city.ginowan.okinawa.jp>